

之れ、近き事なきが、其金紙の貸と使に、
 言ふ由不踏送し費用と行行致る、
 此の如き事と事とて、
 名目と價と高き貸幣、
 皆ぞん州て、
 十分若く、
 而得、
 故と急、

國人要目、
 是迄、
 貸幣と、
 同等、
 之れ、
 コリ、

名目と使國下

卿と棟

三

大正十一年四月

所年我十二月十日
 書問を以約束を以て
 少く新貨幣製造を
 程委細を以て
 一之通き管府令
 及び別所注細を以て
 封し一見城閣下
 今(四)月十九日附
 以(四)月十九日附
 以(四)月十九日附
 以(四)月十九日附
 以(四)月十九日附
 以(四)月十九日附

米示市 法并港埠より已地金又ハ外國貨
 幣と我國貨幣ハ交換ハ為我政府於此便
 宜也為應きとの約束を内地に施行するに
 手此法多知事申度趣隨ハ此方と於てハ
 子百六十六年 之新 之約書亦此法条約
 之條款を點檢するハ其を以て幣ハ交換
 為ハ記載するハ其條款を何事も同知して
 子百六十六年 之新 之約書 掲明す 其と相

違背する事明白と其子百六十六年 之新 之
 約書ハ其大々条ハ全ク子百六十八年 之
 条約中 才十條を改正す 其の左違背する
 出者ハハ其ハ考ルハ其貨幣ハ交換ハ方法を
 盛大ニ取扱るハ我政府於此 地金又ハ外國貨
 幣ハ 換る多クハ不都合あり其法并港埠於
 之準備を以て應き勿論あり其法并港埠
 者ハ換ハ其幣 是撥ハ為港 あり 道路

幸近おれ八時入費の多少は定まらざる能く
 貨物積造りノ費よりハ地倉より積造り
 入費も亦も右例おれを準據するノ入費より
 運搬ノ費亦も亦増加を慮きハ高田ノ倉
 其を以て好造幣案を公出と云ひ給圖機
 械亦も積造り詳細ノ費用を算一得白
 後之を一定の法と爲し積造り準備
 来年ハ亦造幣案を算一久りも公出
 の

運出至五時ノ拙者共々希望多所一
 年既ニ付り城ノ爲る趣き積造り案
 失火加之海上ノ残材を失ひ未だ運延
 子ノ遺憾ニ堪ねる事一城ノ入費ハ銀
 判ノ量目極合よりハ家下は備述ノ趣
 至高ノ理法方々推して左様ハ内務
 以歸ハ多分銀三百十一个即七拾七
 昔个即百枚と云へども地倉ニ入

價重と云凡百奉 見做下 尤是之通
税実詰収納と旧幣も 登る支度且國四
と故后多進く旧幣を之以上
用之る波を乃を方略に合ふ之明速を以て
旧幣を引揚新幣を發行するより便且
之甚著ゆ之れ今閣下對旧幣を毎度
發行 之を之の旨を布告 之より
合を之より出さざる為に御 之を
取

造幣之業を封印之御算計を以て大に都合
ありきこしして之を為價封撥を以て樂を以て
ゆきハ勿論あり素封印を以て税実収納を
便とせん之為 之造幣之業に造るに
為にあり以て造幣之業に造るに
地金を以て更なるのやみ多きハ造幣ありきと地金
ありきとの相合し好不好を問ふに造るに
之に換與するとの金久地金の去來の

夫とて諸税葉之於收納之為事出入四幣
 之府既之彙集三月十百附之書中
 迹一 亦のとりくは是四幣一 昔底の方
 法ありて絶分便重し 亦の事は極早竟
 道幣案く 亦の拙者も 深心を用以外
 貿易通者之為 利益を計りて 為其確立
 之基礎を立度見 此外他竟等之 其進
 之 亦の事は 亦の事は 亦の事は

本十一年四月
 中野村 吉野村